

令和7年度第1回千代田区文化芸術プラン推進委員会 議事録

- 日時：令和7年5月27日（木）16時00分～17時15分
- 会場：千代田区役所4階 会議室A
- 委員：委員長 星野 泉
委員 山崎 鯛介／田中 晴子／新井 巖
阿部 俊裕／マライ メントライン
中田 治子（地域振興部文化スポーツ担当部長）
- オブザーバー：九段生涯学習館指定管理者
（株）小学館集英社プロダクション（欠席）
ちよだアートスクエア次期運営事業者
（株）JTB コミュニケーションデザイン（JCD）1名
- 事務局：地域振興部文化振興課長 武笠 真由美
地域振興部文化振興課文化振興係職員 3名

議事次第

- 1 開会挨拶
- 2 委員紹介
- 3 議題
 - （1）千代田区文化芸術プラン（第四次）進捗確認について
 - （2）千代田区文化芸術プラン（第五次）の策定について
- 4 その他

【配付資料】

- 資料1 千代田区文化芸術プラン推進委員会 委員名簿
- 資料2 千代田区文化芸術プラン推進委員会設置要綱
- 資料3 千代田区文化芸術プラン（第四次）
- 資料4 千代田区文化芸術プラン（第四次）令和6年度実施状況報告
及び計画進捗状況確認調査票
- 資料5 国及び東京都における文化施策動向
- 資料6 千代田区文化芸術プラン（第五次）策定スケジュール

星野委員長	定刻より若干早いですが、新井委員が少し遅れるとご連絡をいただいておりますので、お揃いの皆様で始めさせていただければと思います。宜しく願いいたします。 では、これより令和7年度第1回千代田区文化芸術プラン推進委員会を開会いたします。委員の皆様にはお忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。 この会議の終了時間は5時30分ごろを予定しております。 それでは本日の配付資料の確認をさせていただきます。 区で人事異動があったということで、中田委員と文化振興課長に自己紹介していただくということでよろしいでしょうか。
中田委員	4月から文化スポーツ担当部長となった中田と申します。文化はあまり詳しくはありませんが、皆様のいろいろなお話を聞かせていただきながら勉強したいと思っております。宜しく願いいたします。
文化振興課長	4月より、文化振興課長、文化財担当課長として参りました武笠と申します。宜しく願いいたします。 微力ではありますがもお役に立てればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
星野委員長	宜しく願いいたします。それでは配付資料を確認させていただきます。事務局からよろしくお願いします。
文化振興課長	本日の次第の所に配付資料の記載をさせて頂いております。資料1が本委員会の委員名簿、資料2が本委員会の設置要綱、資料3が文化芸術プラン（四次）の冊子でございます。資料4が文化芸術プラン（四次）の令和6年度の実施状況及び計画進行状況確認票、資料5が国及び東京都の文化政策の動向、資料6が第五次の計画策定のスケジュールでございます。 一点補足がございます。委員名簿にオブザーバーという箇所がございます。 第四次の文化芸術プランのなかで、文化芸術拠点施設を4つ位置付けておりますけれど、このうちの二つの施設の運営事業者にはオブザーバーとしてご参加いただいております。 本日は1名、JTB コミュニケーションデザインの芦田さまにご出席いただいております。
JCD 芦田	JTB コミュニケーションデザインの芦田と申します。宜しく願いいたします。
文化振興課長	もう一つの施設の方につきましては、本日ご都合がつかないということでご欠席でございます。 内幸町ホールおよび日比谷図書文化館については、現時点で区が管

理を行っているため、オブザーバーとしての出席はございません。
以上補足とさせていただきます。

星野委員長

ありがとうございます。それでは議題に移ります。
千代田区文化芸術プラン第四次進捗確認について、ご説明をお願いいたします。

文化振興課長

では、お手元の資料4をご覧ください。
一番上にあるA4サイズの「千代田区文化芸術プラン（第四次）進捗状況」という資料が、まとめたものでございます。
第四次プランの目標は3つございました。
1番目が「保存し伝える」という点で、千代田区の歴史文化を保存継承するという目標を立てさせていただいておりました。
ここにぶら下がる事業は10事業ありまして、4年間の評価をABCで評価しております。Aは「事業を行う事ができた」「目標を達成できるように事業を行う事ができた」、Bは「事業を行ったが、さらに取り組むべき点がある」、Cは「事業を行わなかった」で、バーになっている部分は事業完了など、評価ができないものになっています。
1番目の目標につきましては、10事業のうちA評価が6事業、Bの評価が4事業という結果でございました。
2つ目の目標「創る～千代田区ならではの新たな文化芸術を創造する～」という目標に対しては、12事業行いましたけれども、Aが8事業、Bが3事業、「評価できない」が1事業となっています。
3の「育てる」につきましては、文化芸術の担い手を育成・支援するということで10事業ございましたが、Aが8事業、Bが1事業、「評価できない」が1事業となっています。
合計では32事業ありましたが、そのうち68.8%がA評価という結果でございました。
表紙につきましては以上になります。
A3の表について、「拡充」「新規」のものをご説明させていただきたいと思います。
A3の資料の3/10となっているページでございます。
左側の番号ですと5番目「文化財企画展・文化財特別展」こちらが拡充の事業でございました。企画展・特別展は毎年度行っておりますが、令和6年度は特別展を2つ実施しております。一つ目は「夢二式モデルルームへようこそ」、2つ目は「実録桜田門外の変」、という展示を実施いたしました。どちらも非常に好評の展示という結果でございました。
今後も区が所有する文化財等をはじめ、活用を図るための企画展示を継続していくことを考えています。
次に拡充となりますのが、6/10のページで15「文化事業助成」が拡充の事業となっています。ずっと継続して実施しているもので、区内で活動する文化団体が自主的・自発的に実施する文化事業に対

し、補助金を交付する事業となっています。大変人気の高い事業で、一定の区内の様々な芸術文化活動の振興に寄与しているものですが、現状の補助体制が本当に区民の芸術文化活動の支援につながっているか検討の余地はありまして、今後周知の方法や制度内容について、引き続き検討していきたいと考えております。

続いて、7/10のページ、番号20が新規の事業「障害者アート世界展2020」でございます。こちらは名前の通り、東京2020オリンピック・パラリンピックに合わせて実施した事業でございます。そのため、令和4年度以降の実施はなく、令和3年度限りの事業でございました。しかし、ほかに障害者アートの支援事業ということを実施するということで事業が位置付けられておりまして、障害者アート支援事業はこれからも実施していく予定となっています。

次に9/10となっているページでございます。番号29は新規・拡充というわけではないのですが「ちよだ文学賞」でございます。ちよだ文学賞は今回募集しているもので20回目を迎える事業となります。20回目を一つの区切りとして事業を終了し、新たに文化芸術の担い手の育成支援により寄与できる事業の展開を検討することとしています。

新たな事業については令和8年度に向けて現在検討しているところです。

最後10/10ページの15は再掲ですので、説明は省きますが、文化事業助成はこちらにも位置付けられております。

簡単ではございますが、資料4についての説明は以上となります。

星野委員長

ありがとうございます。

この件につきまして、ご意見ご質問等ございますでしょうか。

この評価のABCは担当部門が評価したのでしょうか。

文化振興課長

まずは、自己評価ということになっています。

星野委員長

文化芸術の中では中心ではないのかもしれないが、6/10のところの地域コミュニティ活性化事業というところに非常に関心がある。

「町会加入の促進や地元産業の振興、地域住民の交流など、地域コミュニティの活性化のため地域が自ら企画・実施するイベント」とあるが、どういう雰囲気のものか教えてほしいのと、町会加入が進んでいるのか、効果はあったのかな、というところをお伺いしたい。データや加入率はあるのでしょうか。

文化振興課長

加入率は手元にないのですが、各町会のほうでいろいろ工夫はされているところですよ。全体としては、新しくマンションにお住まいになっている方の加入促進にはいずれの町会も苦労しているという話を聞きます。

星野委員長

どんな企画があるのでしょうか。

文化振興課長	コミュニティ活性化事業は、町会のイベントとは別に、新しい住民にも参加いただけるようなイベントを町会が中心となって企画・実施しているものです。コミュニティ総務課のほうで補助しております。 たとえば、町会が中心となって映画の上映会を実施したり、おみこしを担ぐ練習会を実施してお祭へ参加できる道すじをつくったり、夏休みに子供たちが水鉄砲で遊べるイベントを開催したりと、色々な取組を行っている状況がございます。
メントライン委員	コロナ禍でいろんな事業が打撃を受けて、予想よりも実施回数が減った事業もあったと思いますが、一区切りがついて、コロナ禍を経ての今後の展望については、どのように評価されて、どのように決まっていたのでしょうか。
文化振興課長	コロナの時は地域のイベントも休止されることがほとんどでした。5類に移行して地域のイベントが徐々に元通りに復活してきており、その中で、デジタル化が進んだという部分もあるので、町会の連絡体制にデジタルを新たに取り入れているところもあります。高齢者向けのスマホ講習会を行うなどの取組みが出てきています。
メントライン委員	コロナ禍の4年ほどでいろんなことが見直されて、「不要」になったものや、オンラインの打ち合わせなど技術的に出来るようになったものもありますが、それによって内容が変わっていくものはあるのでしょうか。
文化振興課長	いまある事業のなかで、すべてがデジタルに置き換わるというものはなかなかないのかなというところなのですが、コロナを経て、感染症や災害時にどうするかという体制や、実際に何かあった時の対応への検討は進んでいます。
中田委員	コロナを経てイベントが復活したのですが、それまで集まる機会が少なかったことで、前より爆発的に人が増えてきたように各課からも聞いています。あとやはり外国人の観光客も増えていきます。
メントライン委員	外国人の観光客がすごく増えていて、不満の声も聴きます。それに対応できているのでしょうか。 コロナ禍の間に世界が進化してきて、いろんな国の人がやってきて、オンライン化などいろんな形や人流が変わってきて、今後の展望としてどこまで見えているか気になります。
中田委員	旅行で来ている方だけでなく、在住の方も増えているように感じます。コロナで一時期減っていたのですが、千代田区の住民票を持っている方が増えてきました。外国人の方との交流や、お互いルール

を守りあって生活していくことなど、きちんと把握していかなければならないなと考えているところです。

星野委員長

ありがとうございます。他には何かございますでしょうか？

山崎委員

今年のこの委員会では第五次の素案を検討するということが課題になっていて、5年の継続事業であるけれども第四次は今年度が最後であり、来年度以降の事業をどうするかという判断材料にする形になるのかなと思うのだけど、そのあたりをこの資料からどう読み取ればいいのか。A B Cの評価を判断材料にすればいいということなのでしょうか。どのように読み解けばいいのか、次の議論の手掛かりになるかと思うのですが、よくわからないのですけど。

文化振興課長

資料の右側の方に今後の展望というのがあります。第五次プランで立てる目標に対して、継続する事業、新しくこういうものがあつた方がいいという事業など、今後の展望を見て頂きながら、ご意見いただければと思っております。

山崎委員

去年までの書式も同じようなものだったかと思いますが、今後の展望、というのは「令和7年度」ということではなく、第五次向けての今後の展望とするという意味合いで書かれているという理解でいいですか。

文化振興課長

第五次策定時期ということもあって、今後の展望として書かれていることは、第五次を策定する際にふまえておくべきところと考えています。

田中委員

文学賞はA評価だったけど終わり。別の単発のものは事業の中で引き継がれていき、形を変えてもこれをベースに事業を続けて検討していくということなんでしょうか。

文化振興課長

続くものについては同様に続くものと考えられます。

山崎委員

令和6年度の進捗状況報告と、第四次計画の評価というのが今日の資料6になってくと思うのですが、この資料は状況報告と評価のどちらでしょうか。

資料の題名は進捗確認ですが、「第四次計画の評価」と書かれているところはお読みください、という扱いですか。これをもとに方向性を議論ということではないのでしょうか。

文化振興課長

資料4が進捗状況を踏まえて、進捗状況の確認とともに4年間の評価、という意図で作成していますので、進捗状況の報告に加え、A B Cの所が4年間の評価ということになります。

山崎委員	担当課の評価ということになるかと思いますが、文化振興課としては評価をどう扱うのでしょうか？
文化振興課長	所管の事業課がそれぞれ作成されているものについて文化振興課で一度確認して、担当課とのやり取りのうえでこのABCを記載していますので、担当課及び文化振興課の第四次プランへの評価ということで見てもらえればと思います。
山崎委員	文化振興課としてはどうなのでしょう？
文化振興課長	それぞれ所管において一生懸命実施されているという認識ですが、事業が順調に実施されているとはいえ、それがイコールで文化芸術の振興につながっているかという、更に取り組むべき点があると考えています。 更に拡充することで文化芸術の振興に貢献すると言えるものについては、第五次プランの中でもう少し強化できるかと思っています。
星野委員長	本日の予定には素案検討とありますが、これは資料5あたりが該当するのでしょうか。
文化振興課長	素案検討について、具体的な資料をお出しできればと考えていたのですが、4月から着手したところであり、本日までにご用意できませんでした。 次回は素案の位置づけの部分や体系図をお示ししてご意見をいただければと思います。
星野委員長	今の段階では、施設はほぼリノベーションをしている状態。文学賞の終了には何か理由があったのでしょうか？
文化振興課長	文学賞は、区外からの応募がほとんどであり、区民の文化芸術振興にはつながらない状況から、見直しの方向になりました。
星野委員長	次の課題になるかもしれませんが、プランを再確認した印象としては、今までは、「文化とは何か」みたいなところから始まって肉付けし、オリンピックやコロナを経て、それが明けて「多様性」というところに行きついている。観光客だけでなく、居住者も増えていることから居住者向けの取組みがないようにも見受けられる。
中田委員	居住者については区内でも確認しているのですが、例えば新宿区では居住者の13%が外国人であり、かなり外国人居住者向けの政策を行っているが、千代田区は6%であり、居住者向けの計画がそもそもありません。

星野委員長	そういった部署の事業を入れることで、もっと賑やかになりそうですか？
中田委員	千代田区には体系だった外国人への対応がなく、大使館との交流やボランティアなど、点でやっているような性格のことが多い。来年度、きちんと体系だったものを作ったほうが良いのではという話が出てくる段階で、文化・芸術のところまで落とし込まれていない状況です。 外国の方へのマップなんかも、言語対応は英語しかなかったり、中国語・韓国語までそろっていたりと庁内でばらばらであり、まずは庁内で必要なものを揃えなくてはいけないという段階。それから文化芸術に向けての取組みとなり、全体的にワンテンポ遅れている印象です。
星野委員長	どこまで具体的に出来るかはわからないが、文言としては入れたほうがよいのではと感じます。 他の自治体（岐阜県美濃加茂市）に調査に行くと、フィリピン、ブラジル、ベトナム、などから工場に働きに来ている外国人が約 10%おり、町内会や消防団にも入っている。役所に行くと案内業務のパートタイムで働いている人もおり、交流も始まっている。目指す方向性はたぶんそういうところだと思う。 とりあえず、すでにやっているものがあれば加えて、少しでもにぎやかにしていったらいいのでは。単に観光客だけ、というイメージになっているので。
山崎委員	多言語化という話では、区としてどういう風にやるかというのは内容というよりは型のようなものと思う。新しい型ができれば中身のほうはどんどん変えていけばいいので、とりあえず内容は始めるべきだと思います。第五次の中ではかなり大きな主題としていった方がいいと思う。
星野委員長	では、第五次に向けての話に移りたいと思います。よろしければ2番目の議題に移りたいと思います。説明をお願いします。
文化振興課長	それでは、資料5、資料6に沿って説明をさせていただきます。 資料5については、国及び東京都の文化施策の動向を示したものですので、ご確認をお願いいたします。 国の方では「文化芸術振興基本法」に基づき、「文化芸術推進基本計画（第2期）」が令和5年3月に策定されております。そのキーワードとして、コロナ、デジタル化、地域活性化がございます。コロナウイルスの世界的な感染拡大を通して、文化芸術の大切さが改めて認識されたという点もあると思っています。こういった経験を踏まえて第五次に記載できればよいと思っています。 そして技術の変革を通して、DX化も進んでおり、DXの対応も落

とし込んでいく必要があると思います。

地域活性化というところでも、文化芸術を地域活性化に資するものとして活用していくという考えですし、また、経済との結びつきについても国の計画で書かれている所です。経済や観光の部分との結びつきについても第五次の中で重要な視点になるかと考えております。

続いて「障害の有無にかかわらず文化芸術活動の推進・支援」というところではありますが、オリンピック・パラリンピックを通して社会包摂に資する文化芸術活動の広がりや、文化事業・活動へのバリアフリー対応等のアクセシビリティの向上といったところがレガシーとして掲載されています。そういったレガシーは、区も引き継いでいく必要があるものと考えている所です。

3番目には、文化財の保護から活用への拡大という点がございます。法改正がなされまして、地方自治体においても文化財保存活用地域計画を策定することができるようになりました。千代田区でも現在策定に向けて取り組んでいるところです。保存するだけでなく、活用という視点を持って、文化財の保護を行っていくという点も、第五次プランの重要な視点となると考えております。

3ページ目に参りますと、東京都の動向でございます。

東京都では令和3年に「未来の東京戦略」が策定されており、それを引き継ぐ形で、令和7年3月に「2050 東京戦略」が策定されております。こちらは、「東京発の洗練された価値が世界中の人々を刺激し、心を潤す」ということで、文化芸術の視点が、これまでと一線を画して、限られた愛好家だけのものではなくて、社会の基盤である、ということが記載されているものです。文化芸術が社会の基盤であるという点は、第五次プランにおいても重要な視点だと思います。

その他、東京都から、「東京文化戦略2030」や「都立文化施設運営指針」「観光産業振興実行プラン」等様々な方針や指針が出ているため、これらを踏まえることも必要と考えております。

続いて資料6のスケジュールにまいります。

皆様には3月27日の第五次策定のキックオフのところから、ご尽力いただきまして、どうもありがとうございました。

本日、5月27日の会議で進捗報告等させていただきまして、次回は7月中旬となっておりますが、31日(木)午後2時からを予定させていただきます。

2回目の会議では、素案や前半部分のたたき台や、体系図の案などをお示ししまして、第五次プランにむけた、より具体的なご意見をいただければと思っております。

そしてまた9月には3回目の素案検討のための委員会を予定し、11月上旬には計画の素案を固め、12月にはパブリックコメントを実施し、その結果を踏まえて修正したものを皆様に確認していただきつつ、区議会にも報告し、3月下旬には計画を確定する、というスケジュールになっております。

スケジュールと、国と都の動向については以上になります。

山崎委員

資料5について、前回国や都の動向を踏まえたほうが良いのではとお話したためご用意いただいたのかと思いますが、これを踏まえて第五次プランに反映させる、というのは結構大変な作業と感じました。また、何を反映させるか、ということもここでは一度も議論はしていないですし、どうするとよいでしょうか。

さらに、千代田区が作成している「文化財保存活用地域計画」は、今年度中にまとめないといけないものかと思いますが、これとの関係が乖離するとまずいですよね。

資料5の重さに対して資料6のスケジュールが変動しそう。あと2回の委員会でできるのでしょうか。

星野委員長

これまでの流れで言うと、「東京都の条例等について」というのは途中から取り入れたもので、最初は都の動向とは別に独自に作っていましたので、何か参考に使えるようなものがあれば、それに乗っかるのも良いですが、なければ無理しなくて良いのではと思います。全部そのとおりに動いているわけでもないと思いますので。

山崎委員

資料4の評価の基準という点での話題にもありましたが、粛々と続いているところに、何かしらの客観的な方針を入れこんでいくことで、それまで評価されなかったものが評価されるようになったりするのであれば、その評価基準のもととなる参考資料として、資料5、国や都の動向が関係しそうに思います。資料4、5、6のつながりをどう理解すればよいでしょうか。

第四次の中だけで粛々と続いている時期であれば構わないですが、4を5にする、という時期ですので、その時間が足りるかなという懸念を抱きました。次回素案がつくれるのかな、と。

文化振興課長

ご指摘ありがとうございます。本来は今日体系図などもお示ししたかったのですが、そこまで間に合っておらず申し訳なく思っております。

資料5は国や東京都の動向ということですので、そっくりそのまま達成できるように第五次プランを作るという風には考えておりません。国や都の示しているような、デジタル化や地域活性化、社会基盤として限られた一部の人のものではなく皆のものであるという文化芸術のあり方、パラリンピックのレガシーを通じて障害者の方も参加できるような文化芸術のあり方等、そういったところは区の事業としても取り組まれているところですので、実施できる、実施していることは、動向を踏まえて第五次プランに記載していければと考えております。

星野委員長

書き方としては、国や都の動向は、紹介するという形で、重要な部分を抜き出して、前のほうに書けばいいのではと思います。国の政

策のデジタル化やD Xは地方財政計画のように国のいろんな政策から持ってきているようなものですし。

山崎委員 デジタル化やD Xの思想的な部分をもう少し反映したほうが良いのでは、と思います。具体的な施策というよりも、「こういうことを大事にします」というものを、千代田区ではどういう形で行うかと。

文化振興課長 資料5の6ページ目で、各自治体のD Xの活用事例ということで「収蔵品のアーカイブ」「ARの探訪」といった事例を載せております。千代田区でも行っていることとして、文化財収蔵品のデジタル化をすすめており、一部現在でもHPで公開しているので、そういった取り組みの推進などを含めてデジタル化の部分を記載していければと思います。

山崎委員 地域活性化はどうでしょうか。

文化振興課長 地域活性化については、文化財の活用もそうですが、文化芸術・文化財については特に観光との親和性があると考えています。文化財を活用した観光との連携や、千代田ミュージアムネットワークの活動の中から地域活性化につながる取り組みができればと考えています。

山崎委員 そういふところのメッセージを強く出してほしいと思います。

星野委員長 他に何かございますか。

山崎委員 前回、サテライトなどハコの話が出たと思いますが、何を話したかな。前回の議事録があればと思います。

文化振興課長 次回からご用意いたします。

田中委員 第2章に国や都の施策が入ってくるとということで、第1章の芸術プランや基本条例については変わらないから、脇の枠組みのところ、施策等において、時代に合わせて、現況に合わせて、考え直していく、ということになるのでしょうか。プロジェクトの要素に入れながら。

文化振興課長 仰るとおりです。

田中委員 拠点施設が2つしかないのも、でも5年後には作られているので、そこで活用されると？

文化振興課長 改修中で一時休館という状況ですので、再開した時を想定しつつ、

記載することを考えています。

- 田中委員 2館しかないけれども、オブザーバーとして関わる人からのご意見を伝えていただけると、その現実的な区民の皆様にも愛されている部分などが活かされながら残っていくのかなという気がしました。ただ全部参加するわけにいかないの、何が大事で残すべきか、どう変更していくとより今にあるのか、が見えてくると良いかなと感じました。
- 文化振興課長 重要なお指摘ありがとうございます。本日もオブザーバーでJCD様に参加いただいておりますが、ちよだアートスクエアの開館後につながるように、地域活性化につながるような別途事業も展開していただくので、そのことも書いていきたいと思っています。
- 山崎委員 四次を作った時の記憶が曖昧なので質問したいのですが、素案というのはほぼほぼ冊子のようなかたちで出てくるという認識で良いでしょうか？
- 文化振興課長 7月にお示しできるのは、体系図や、前半部分になるかと思います。具体的な事業については7月では十分ではない可能性がございますので、9月には一通りそろったものでお見せできればと考えているところです。
- 山崎委員 前半というのは16ページくらいまででしょうか？
- 文化振興課長 位置づけ、体系図等のところの案をお示しできればと考えています。
- 山崎委員 そこに紐づくプロジェクトは、どういう風に決まるのでしょうか。
- 文化振興課長 区で現在実施されている事業や今後予定の事業等を拾いだして、そこを結び付けていくという作業になります。
- 山崎委員 一番重要なのは施策体系の図の「施策」が重要になるのでしょうか？「プロジェクト」？
- 文化振興課長 「プロジェクト」が具体的な事業につながる部分と考えております。
- 山崎委員 今13個ありますが、これが増えるということはあるのでしょうか？
- 文化振興課長 この辺の施策とプロジェクトという書き方については、このままいくのかどうか、あるいは、より分かりやすい方向に変えるということ

とも検討しているところです。

田中委員 14 だったのが、13 に減りましたよね。

山崎委員 「これはこっちじゃないか？」とか。

星野委員長 結構それでエネルギー使いましたね
「伝える」とか「育てる」とかも、似ているから「こっちがいいんじゃない？」とか。それが効果的だったかどうかはよくわからない。もっと単純化しても良かったかも。

メントライン委員 私がモヤモヤしているのが、結局それぞれのプロジェクトにどれくらいのお金が割り当てられて、どこがボランティアで、とか。我々の方ではそこまで考えなくても良いのかもしれませんが、どこかで参考になるのではないかと思います。
増えるところがあれば減るところや、なくなっているものもあるかもしれないし。無限に増えるわけではないので。
私もインバウンド観光のことをやっているなかで、予算がどんどん減らされていったので、そのあたりのことは大変気になります。金額じゃなくても良いので、予算の割合であったり、誰がどうやってどのお金でやっているのか。想像しづらい所があります。

山崎委員 重点的なところが何なのかわかるほうが良いですよ。

メントライン委員 そうです。どのくらいの予算が動いて、どこがどう大事にされているのかと。

田中委員 少なくとも文学賞がなくなるから、そのお金がどこかに流れていくということなのでしょうか？

文化振興課長 ジュニア文学賞は、子供の文化芸術を促進するかたちで何か新たな事業を、と考えているところではあります。

メントライン委員 例えば「障害のある方へのこれはやりたいよね」と施策に入れたとしても、実は予算がつかず、「どこかでポスターを貼りました」だけで終わってしまって、でも A 評価がつく、とかだと虚しいなと思います。そこまで知っていいかどうかはわかりませんが、せめてパーセンテージだけでもわかるといいのにな、という思いがあります。

田中委員 情熱のある人がいたからこそ続いていた事業などについて、担い手不足の状況が生じたりしていないか、それを続けていくために、お金の部分だけでなく、大変な部分があった場合はそれに代わるようなフォローができるかどうか、が心配です。

この場で考えることではないかもしれませんが、補助するようなテーマになればいいと思います。ここで話し合うことによって、「ここに当てはまるから、区のほうで助けられます」など、そういうようなことができるのであれば、それに寄せた文章にできればいいと思うのですが、詳細がわからないので、その辺の情報をいただければと思います。

新井委員

遅れまして申し訳ございません。前半のお話を伺っていないのでピントがずれているかもしれませんが、新しい計画の策定という前提で今回評価をすることということになると、第四次の15ページの「ポイント」というものがありますが、こういうものはどんどん膨らんでくるものだと思うのです、項目として。あるいは実際にやってみたら成果が上がらなかったものもあるかと思うので、その辺の加除については、どの程度認められるものなののでしょうか。たとえば他区の文化芸術への取り組みにあるようなことを、「千代田区でもやろう」となった場合に、先ほども仰っていたように予算の塩梅など、どうなるか。現状では千代田区は文化的なところについて充実しているとは思えないので、もし、やろうとすれば項目は増えていくものだと思います。増えたところで、実際にできるかどうかは予算も含めてですけれどもマンパワー含めてあるかどうかというのを、そこら辺のところをそれぞれのプロジェクトで検証していかないと、プロジェクトのテーマとしては外れたことを書いているわけではないので、「まあいいじゃないか」となって、ただ踏襲するだけというような感じにもなってしまいますので。それが果たして良いのかどうか。

やはり第四次までの積み重ねを、どうしたら今までと違う形で表現できるのか。踏襲するだけでは意味がないので、もう少し新しいもの、あるいは、企画したけどうまくいかなかったことについて、削るかどうかは別にしても、何か再評価する、などのことによって、また新たなものを付け加えていく、というようなことをしないと、第五次の文化芸術プランが有意義にならないのではないかという危惧がします。

文化振興課長

区は単年度予算ということもあり、先の5年間を見通すのが難しいのですが、ご意見の通り、このプランがあるからそれをもとに「こういうこともできる」、という風に使っていただくのも一つかと思っております。

第五次プランを作成するにあたって、文化振興課がこれまでのものを引いて作るだけではなく、庁内の意見も聞きながらやっていきたいと思っております。

そこで位置づけられる新たなものがあれば、積極的に入れていきたいと考えております。

新井委員

それも考えるとこのスケジュールは相当厳しいのではないかという

気がするんですけども。

「これでいいんじゃない」とスタンプを捺す（追従する）だけになってしまいそうなので、その辺りが心配なんですけれども。

星野委員長

文化芸術に近いような取組みをやっている担当課はたぶん他にもあるのでは。おそらく最初のあたりはこれに合うようなのを引っ張ってきて作ったのが最初だったとおもいますが、そういう意味では「これでいいんじゃない？」という程度のものがあれば、この中から外しちゃえばいいような。で、外したからといって、やるかどうかは区が考えるということで、文化芸術プランの中にはあまり位置づけない、というのはいかがでしょう。

田中委員

あとは、わかりやすい事業の目玉があればいいな、という気はしますね。冊子を見てもイメージがわからないので。
第五次プランはこれだ！というようなものがあれば。

文化振興課長

ちょうど仰っていただいたような、重点的なものがわかるようにということですね。

田中委員

そうですね、重点的なものです。それ以外は、継続するにしても時代に合わせた、複数の事業を組み合わせたものでも構わないのですけれども、その中で「ここを重点的に持ってきます」というものや、必要に応じてというものがあれば、区民の皆様も変わるところがわかりやすいかと。
我々もなんとなく、どこからどう理解して意見を言えればいいんだろう、という感じなんですけれども。
皆不安があったりするのは、わかりやすい形で伝えられるような道筋が見えていない、というところが一つあって、もちろん練りに練った第四次プランがあって、前の人たちも練りあがっていた部分の、同じ一からの議論をするのは難しい話だと思うので、その中でどう第五次プランをわかりやすく伝えるか、という目安があるとよいなと思います。

文化振興課長

第五次プランのテーマみたいなものでしょうか。

田中委員

テーマでもいいし、一つの事業でもいいし、またがるものでもいいし、一つの事業において、こんな大きなものを加えたぞというような。例えば展覧会でいえば、ポスターの表紙に来るような象徴的な何かがあると、軸が一つみえるからわかりやすくなるかもしれないなと思いました。

山崎委員

事業の出し入れについて、現実的には管轄課のパワーバランスもあると思いますが、部署をまたいでの貸し借りみたいなものは現実的にはあまりないのかなと。担当課ごとの評価というか、それぞれの

エフォートの中でやっているという、複数の事業を運営した中での評価というのがあるのかな、という気がします。

田中委員 確かに評価基準が自前でやっているから、誰が厳しく評価していて、誰がそうでないのかがわからないですね。

山崎委員 「B」とついているのは、自分に厳しくBと言っているのか、もうやりたくないからBと言っているのか、どういう課の雰囲気によるのか。

田中委員 あんまりあてにならないかなって。

山崎委員 文化振興課の中での出し入れではなく、現実的にはそう読まないといけないのかなと。でもそれじゃあ違いますよね。ハコが一つ増えるとかそういう話がないと、たぶん。

新井委員 施策の1番目にある「まちの記憶の保存・継承」をみても、これ自体を悪いとは思っておりませんが、これをもってして、「まちの記憶の保存・継承」と謳っていいのかという気がするんですね。もっと基本的な作業が必要ではないかと。

私もプレートを立てろと言っている側ではありますが、プレートを立てたからと言って「まちの記憶の保存継承」ができたかという
と、それだけではできないわけで、建てるうえでバックグラウンドなどを説明してあげないと、「ここで誰それが住んでいました」とか「ここで誰それが生まれました」とか「こういう事業を日本で始めてやりました」というだけでは、「そうですか」で終わってしまっ
て、継承にはならないと思います。

もうちょっと深い所で、とくに行政がやるのですから、例えば、アーカイブがないんですね、歴史的なものが。

十数年前に麴町地区でやったんですけども、この周辺の戦後の話で、今の上皇陛下のご成婚時のパレードの写真なんか、みんな喜ぶんですね。ただ、あの頃はあまり風景写真なんか撮らないんです。町の記憶の部分では写真があまりないんですが、とはいえ持っている人も結構いる、そういうのを吸い上げて、アーカイブで何らかの形で発信する、今はデジタル技術もありますから簡単にできると思います。そういうことをやっていかないと、写真を集めたからといって、ごく小さな効果で終わってしまう。その中に背景として、区民、区民以外の人にもアピールできるものがないと。

区長が、祭とか伝統行事をもっとアピールしましょうという話になりましたが、祭というのは一時的なもので、その背景にある「まちの暮らし」というものをもうちょっと見つめて、発掘していかないと、本当の意味での「まちの記憶の保存」はできないと思うんですね。そういう面もプロジェクトのあたりに加えていただくのがい
いんじゃないかと思うんですね。

私は「番町麴町『幻の文人町』を歩く」という本を書いたのですけれども、ほとんど今まで千代田区で発掘していなかった情報なんです。もうちょっと活用していただけるといいなと…売り込むわけではありませんが。実は、大妻小学校の校長先生だった班目先生という人がそういう本をお書きになって、それに啓発されて書いたのですけれども、そのあと誰も後を継いでくれないんですね。それは麴町地区のことだけなんですけれども、神田地区なんて、もっと広がってそういったものがあるはずなので、そういうものをもうちょっと積極的にやっていただきたいなという思いがあります。

文化振興課長

ありがとうございます。

山崎委員

文化財保存活用地域計画のなかの大きなポイントになるわけですね。双方向であるということがたぶん一番大事で、千代田区で用意したものを区民に提供しますで終わるんじゃなくて、参加する人たちのことをデータとしてバックしてアーカイブする、それを見せることで、自分たちの活動が見えるわけですから、そういうところにDXは使うべきであって。それもまた、多言語の人が多いのであれば、多言語でやればさらに効果も大きくなる。やっぱり早く地域計画との関係を見直すというか、早く成果を上げていただく必要があると思いますけれどもね。

文化振興課長

文化財保存活用地域計画のほうにも引き続き取り組んでまいります。文化財につきましては、収蔵品のデジタル化の作業を現在進めているところですので、デジタル化したものを活用して、双方向のやり取りや、区民のみなさまにご活用いただけるようなあり方、それによって文化財もより生きてくるようなあり方、についても検討していきたいと思います。

山崎委員

第五次で大きく謳ったほうが良いと思います。これがあってネットワークですからね。目標はネットワークとすると良いと思います。デジタル化はツールであって。

田中委員

そうですね。どう活用されるのかなという感じですよね。デジタル化だけでも、目的がないと見ないですよ。ただアーカイブにするのではなく、それをどうつなげるかということが重要だと思います。

山崎委員

それを落とし込むためには、場所が必要なわけですよ。それは建物かもしれないし建物じゃないかもしれないですけれども、デジタル化すると建物に制約されないというか、多少の場所があれば、デジタル化したデータで何かしらができる、ということで自由度が上がるわけですよ。立派な建物がなくてもできるということで、その辺も全部リンクしているので、フットワークの軽いネットワーク

というものがあるといいなど。

星野委員長

個別の事業までは書き込めるかどうかはわかりませんが、そういった観点も入れ込んで。

第三次、第四次は最初のあたりオリンピックなど意識しながらという事でしたが、これも終わったので、また新たに幅を広げてデジタル化もいれていただく。それから観光客だけでなくて居住者。大使館との交流は居住者も絡んでくるので。それから中田委員がおっしゃった取組みが出てきそうであれば、担当課にもご意見を伺って書き込めるものがあるかどうか、調べていただければ嬉しいと思います。

他、何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、次回は「プランの位置づけ」前半、ということでどこまでやれるか、というところですけども。今日の皆様方のご意見を取り入れ、少し変化したものを作っていただければありがたいなと思います。

事務局からの連絡事項をお願いいたします。

文化振興課長

本日は貴重なご意見をありがとうございました。7月に向けて頑張りたいと思いますので、また宜しくをお願いいたします。

次回の推進委員会の開催日程ですが、7月31日の午後2時からを予定しております。お忙しいところ恐縮ですが出席をお願いいたします。

星野委員長

他、何かご質問などございますでしょうか。

なければ、これで第1回の千代田区文化芸術プラン推進委員会を終了としたいと思います。ありがとうございました。